

＜今日の説教のポイント ローマの信徒への手紙 8 章 18-25 節＞

### ①聖書は人間の罪とその救いを問題にしているのでは？

世界の温暖化問題。聖書とは全く関係のない問題のようです。しかし、パウロはここで人間以外の「被造物」のうめき(22)とその救いについて語っています。なぜか？ それは全ての被造物の苦しみに人間の罪が関係しており、全被造物の救いに人間の罪からの救いが大きなカギを握っているからです。それがこの聖書箇所が示す人間と全被造物との関係です。このことは②に引用した旧約聖書の箇所からも分かります。

### ②人間以外の被造物も神様が愛しておられる大事な存在！

「国が打ち捨てられ、あなたたちが敵の国にいる間、土地は安息し、その安息を楽しむ。土地は、打ち捨てられている間、あなたたちがかつて住んでいたころには得られなかった安息を得る」(レビ記 26:34-35)。「あなたたちは、自分のいる土地を汚してはならない。…あなたたちの住む土地、私がそこに宿る土地を汚してはならない。主である私がイスラエルの人々のただ中に宿っているからである」(民数記 35:33-34)。前者からは、人間の無謀な行為によって汚され打ち捨てられた土地に休息と回復の時が与えられたような感じを受けます。後者からは、土地もまた神様に属する大事な存在であることを思われます。土地だけでなく、「人間と全ての被造物と私との関係はこのようなものだ」、と神様は聖書を通して語りかけておられるのです。では、聖書は人間も含む全被造物の救いについてどう語っているのでしょうか？

### ③過ぎ行くこの世界で、被造世界の修復作業に取り組む理由は？

パウロはここで二つのことを指摘しています。一つは現在の苦しみの先に神様が用意されている栄光(18, 21)と希望(20, 24)。もう一つは「神の子たちが現れること」(19)です。「神の子たち」とは誰のことでしょうか？ 全被造物の苦しみに絡む私たち人間の罪を赦して下さった神様。そのことを知らされて新しく生き出した者について語っているこの箇所。そのことを思うと、これは傷ついた被造世界の回復に私たち自身が取り組むことを促しているのではないのでしょうか？ 神様の被造物の中の一つである私たち。その私たちの罪を神様は御子イエスの死をもって贖って下さり、今もこの世界で私たちに多くの喜び(栄光の徴!)を与えて下さっています。汚された自然の回復は人間の予想以上に早く、その回復作業に私たちが取り組むことを被造世界も待っているのです。